

# サーベイランス委員会

発表日 2018年7月3日  
 発表者 サーベイランス委員会  
 委員長 渡邊 能行

1

## サーベイランス委員会の位置付け



3

## サーベイランス委員会設置の経緯

2006年 取組宣言  
 SC推進協議会設置  
 2007年～2010年  
 外傷データの収集やアンケート調査の実施

### 課題

データ分析に基づく取組への  
 フィードバックが不十分

「セーフコミュニティの指標4、5、6」をカバーする組織

2011年 サーベイランス委員会設立

2

## サーベイランス委員会の構成

	所属団体	役職
1	京都府立医科大学 教授	委員長
2	京都府南丹保健所 所長	副委員長
3	京都学園大学 健康医療学部 教授	
4	立命館大学 産業社会学部 教授	
5	亀岡市医師会 鎌田整形外科医院 院長	
6	社会福祉法人倣囊会 理事長	
7	亀岡警察署生活安全課 課長	
8	亀岡消防署副署長兼警防課 課長	
9	亀岡市総務部 部長	

4

# サーベイランス委員会の役割

① 外傷発生状況等に関するデータ収集・分析

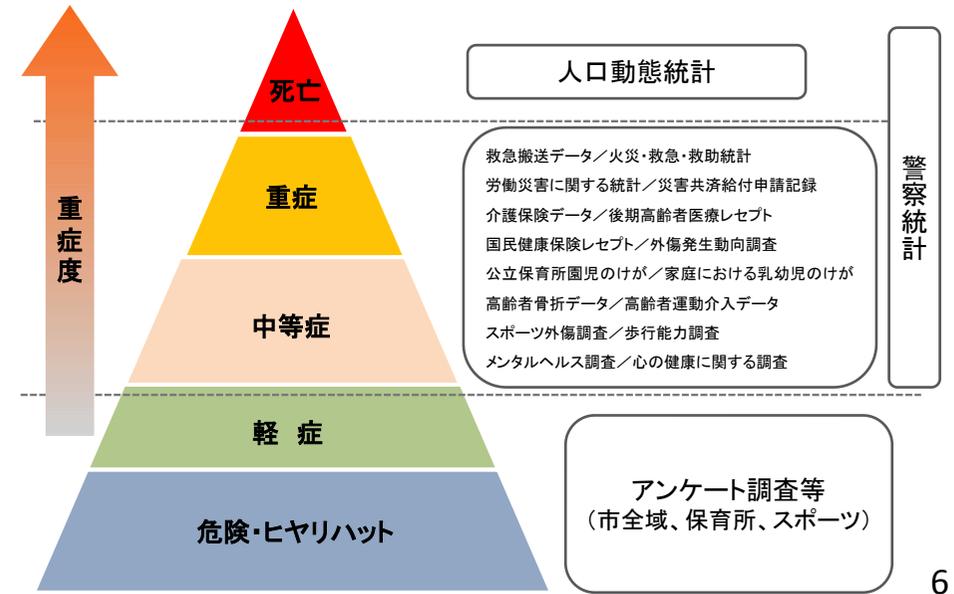
② SCの方向性決定に必要な情報提供  
→重点領域(対策委員会)の設置

③ SCプログラムに係る根拠データの情報提供  
及び評価指標の提案

④ 取り組みの効果検証、改善提案

5

## 外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み



6

## SCサーベイランスを構成する主なデータ①

データ	対象	担当委員会	関係機関	頻度
人口動態統計	全住民	全対象	国・京都府	毎年
厚生労働省データ	全住民	全対象	国	毎年
国勢調査	全住民	全対象	国	5年毎
警察統計	全住民	交通安全、 防犯、自殺	亀岡警察署	毎年
救急搬送データ	全住民	全対象	亀岡消防署	毎年
介護保険データ	全住民	高齢者の安全	亀岡市 (高齢福祉課)	毎年
国民健康保険 レセプトデータ	全住民	高齢者の安全	亀岡市 (保険医療課)	毎年
スポーツ外傷調査	スポーツ 少年団員	スポーツ	亀岡市 (スポーツ推進課)	3年毎

7

## SCサーベイランスを構成する主なデータ②

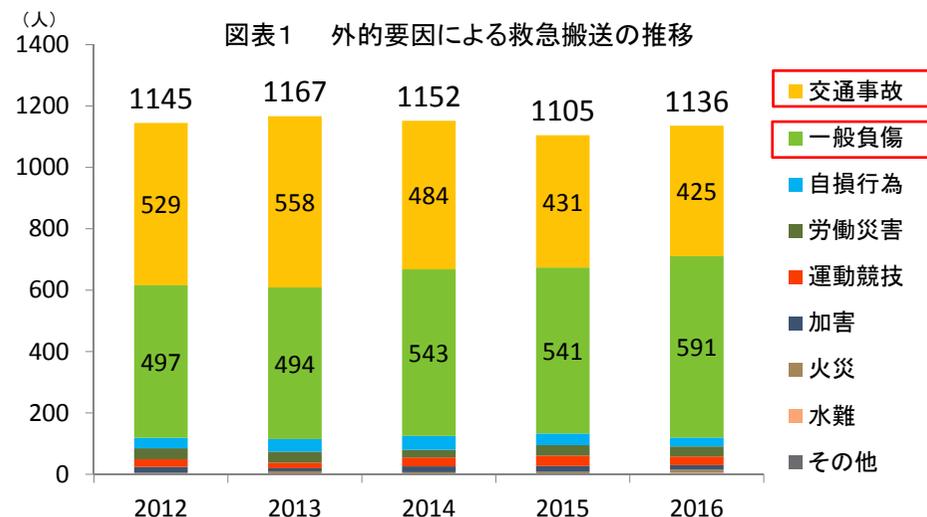
データ	対象	担当委員会	関係機関	頻度
学校保健データ	小・中学生	スポーツ	亀岡市 (教育委員会)	毎年
公立保育所 保育士アンケート調査	園児	乳幼児	亀岡市 (保育課)	毎年
公立保育所園児 外傷データ	公立 保育所	乳幼児の安全	亀岡市 (保育課、公立保育所)	毎年
スポーツ少年団 指導者アンケート調査	スポーツの 指導者	スポーツ	亀岡市 (スポーツ推進課)	3年毎
家庭内の事故予防調査 アンケート	乳幼児 保護者	乳幼児の安全	亀岡市 (保健センター)	毎年
SCアンケート調査	全住民	全対象	自治会	随時
SCモデル地区 アンケート調査	全住民	全対象	モデル地区	随時

8

# 救急搬送データによる 亀岡市の外傷の概要

## 亀岡市の外傷状況（2012～2016年）

一般負傷と交通事故による外傷が多い

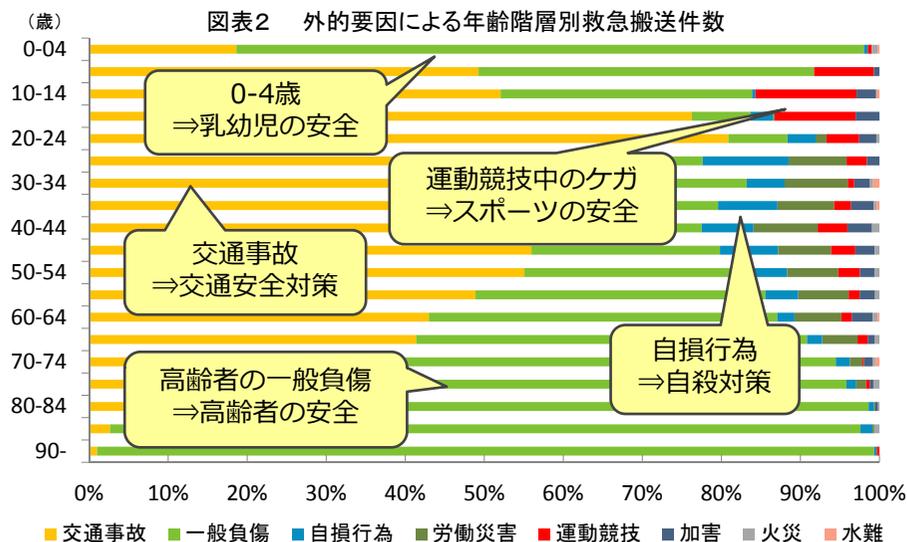


9

出典：救急搬送データ 10

## 亀岡市の外傷状況（2012～2016年合計値）

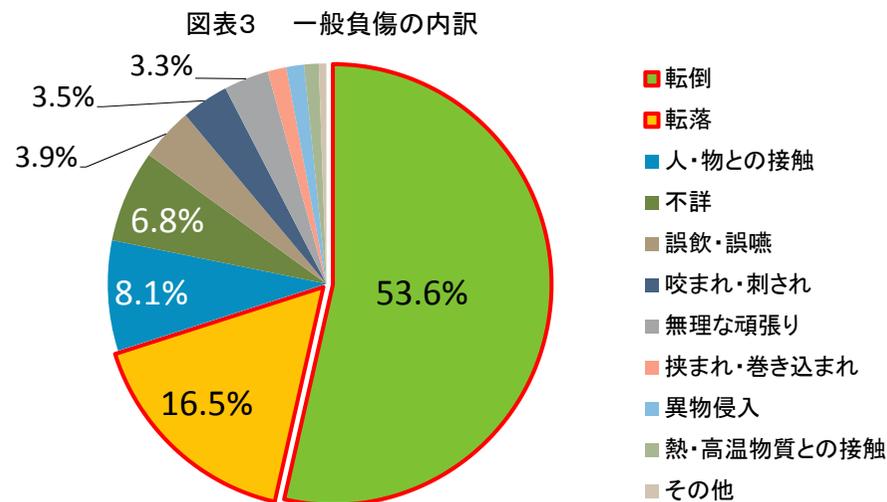
救急搬送データからみた重点的な対策領域



出典：救急搬送データ(2012～2016合計値) 11

## 亀岡市の外傷状況（2012～2016年合計値）

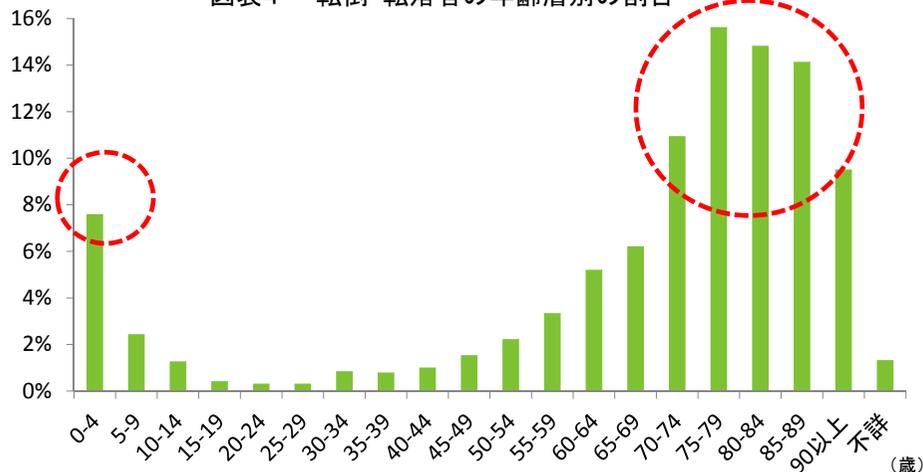
一般負傷は「転倒・転落」が70%を占めている



出典：救急搬送データ(2012～2016合計値) 12

転倒・転落は「0-4歳」「65歳以上」が多い

図表4 転倒・転落者の年齢層別の割合

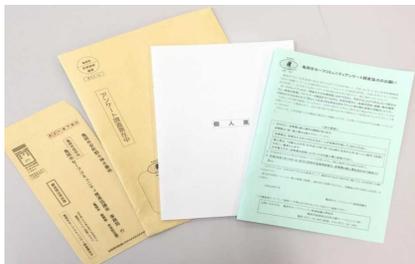


出典：救急搬送データ(2012～2016合計値) 13

## セーフコミュニティアンケート

## アンケートの実施内容

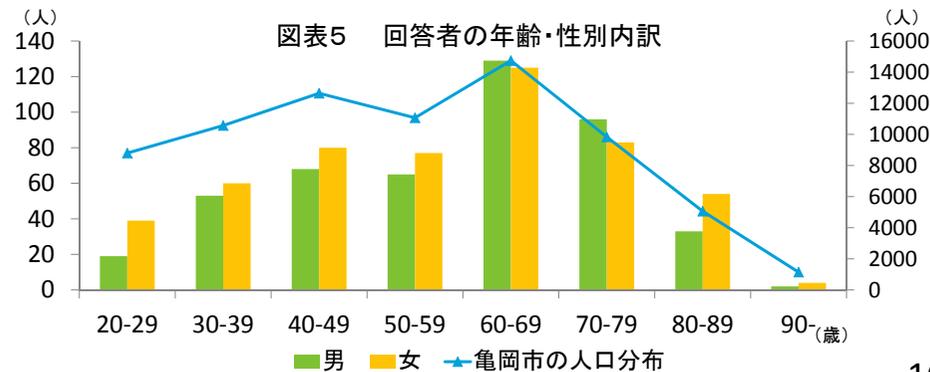
時期 2016年7月  
 (前回 2007年2月)  
 対象 2,000世帯  
 年齢 18歳以上  
 有効回答 532世帯  
 (個人票 1,003人)  
 男性：470人 女性：526人 無回答：7人  
 有効回答率 26.6%



サーベイランス委員会が  
アンケート内容の検討・分析を実施

## セーフコミュニティアンケート

年代 男性：①60代(27.4%) ②70代(20.4%)  
 女性：①60代(23.8%) ②70代(15.8%)  
 職業 男性：①会社員(34.7%) ②無職(29.4%)  
 女性：①専業主婦(29.3%)  
 ②パート・アルバイト、無職(21.7%)



出典：セーフコミュニティアンケート2016 16

## セーフコミュニティアンケートで 外傷の全体像を調査

外傷全体に  
占める割合

乳幼児(0~4歳)が自宅で転倒・転落

13.5%

子ども(10~14歳)が学校・スポーツ  
施設で運動中に受傷

32.4%

65歳以上の高齢者が自宅で転倒・転落

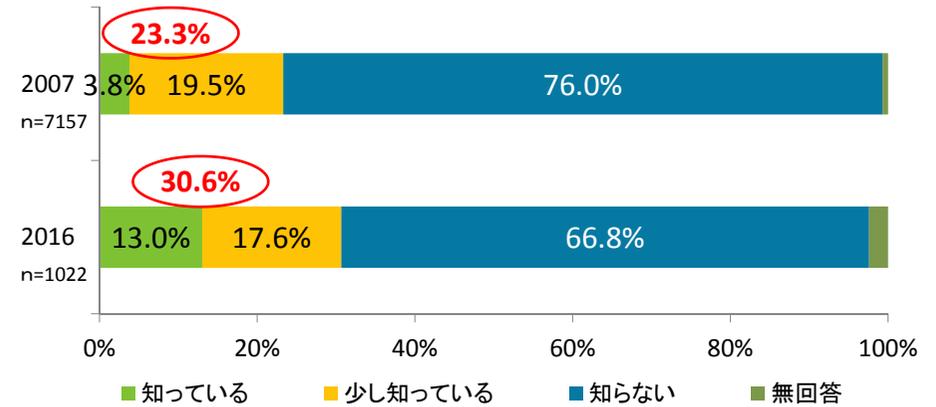
27.6%

出典:セーフコミュニティアンケート2016 n=135 17

## セーフコミュニティアンケート

セーフコミュニティの認知度は上昇している

図表6 セーフコミュニティを知っているか?

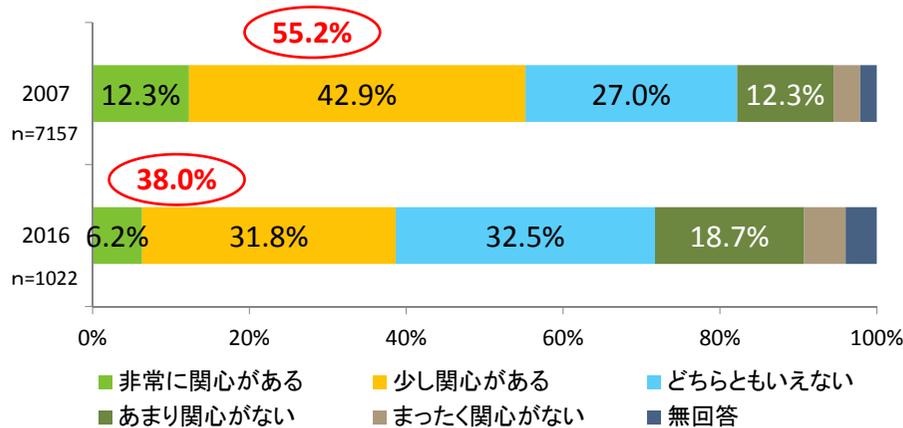


出典:セーフコミュニティアンケート(2007,2016) 18

## セーフコミュニティアンケート

セーフコミュニティへの関心は減少

図表7 セーフコミュニティに関心があるか?

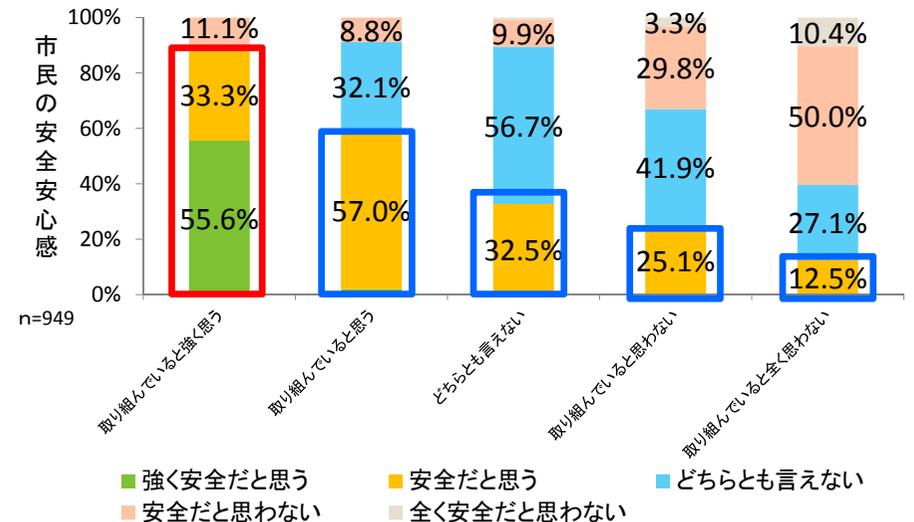


出典:セーフコミュニティアンケート(2007,2016) 19

## セーフコミュニティアンケート

地域活動に熱心に取り組んでいる人ほど安全安心感が高い

図表8 市民の安全安心感と地域活動への取組状況

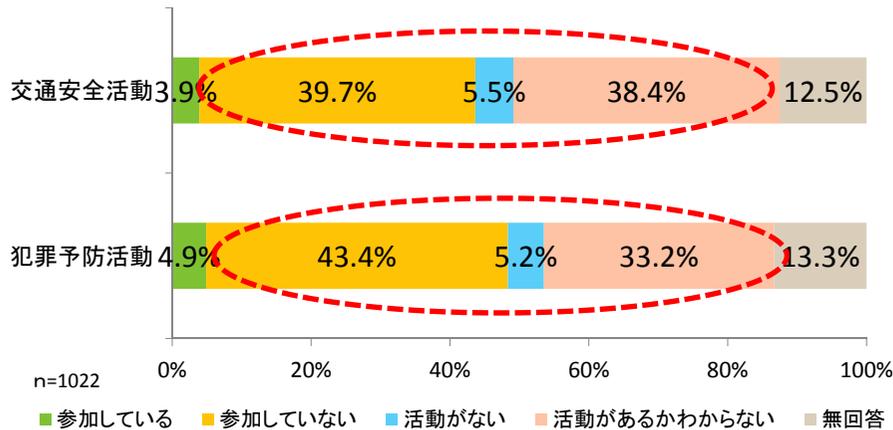


出典:セーフコミュニティアンケート(2016) 20

# セーフコミュニティアンケート

約80%の市民が地域活動に参加していないと回答

図表9 現在、地域活動に参加しているか？

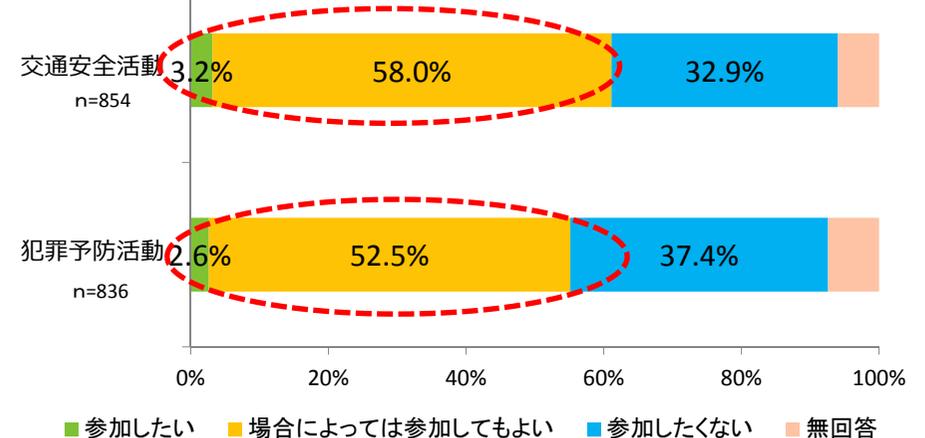


出典：セーフコミュニティアンケート(2016) 21

# セーフコミュニティアンケート

約60%の市民が地域活動に参加しても良いと回答

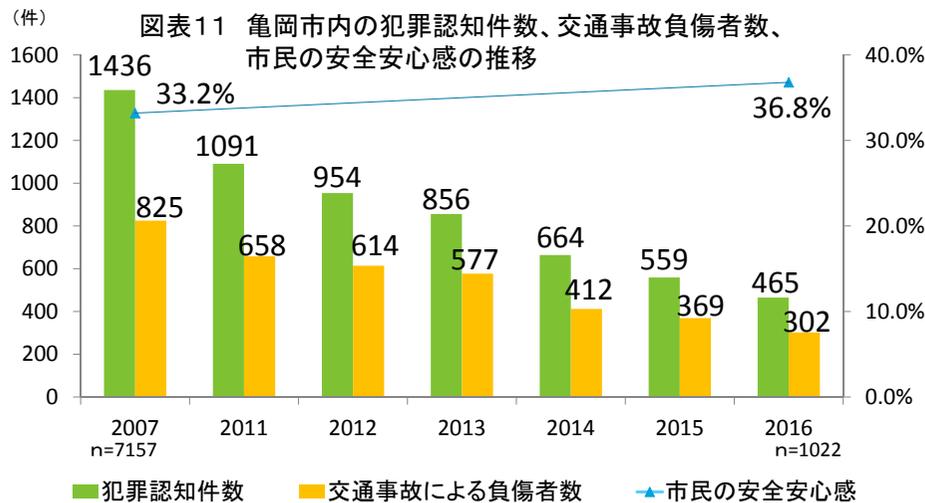
図表10 今後、地域活動に参加したいか？



出典：セーフコミュニティアンケート(2016) 22

# セーフコミュニティアンケート

犯罪認知件数や交通事故負傷者は大きく減少しているが、市民の安全安心感は少ししか増加していない



出典：犯罪統計、交通統計、セーフコミュニティアンケート(2007,2016) 23

# セーフコミュニティアンケート 分析結果の活用

交通安全対策委員会のデータ活用事例  
(セーフコミュニティアンケートの分析結果を活用)



「セーフティドライブ」プロジェクト  
市民参加型の取組がスタート!



シンボルマーク

防犯対策委員会のデータ活用事例  
(セーフコミュニティアンケートの分析結果を活用)



「まちレコ」プロジェクト  
市民参加型の取組がスタート!



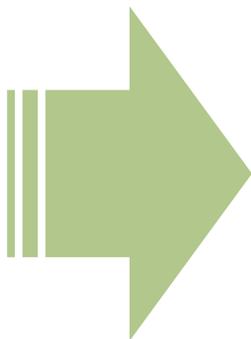
シンボルマーク

SCプログラムの効果検証・評価

設立当初

現在

評価結果をSC  
事務局が各対策  
委員会に報告



各対策委員会が  
サーベイランス  
委員会で事業報  
告を行い、直接  
評価結果を確認

各対策委員会の取組の詳細を把握するとともに、  
委員会との連携強化を図る

SCプログラムの効果検証・評価

サーベイランス委員会・対策委員会正副委員長  
合同会議



## サーベイランス委員会設置の効果

日本は外傷データを収集するシステムがないが、救急搬送データ等の収集・分析ができるようになった。

市の職員が出来ない統計的に適切なデータ分析などを委員会で実施出来るようになった。

効果検証を行う組織として設置したことで、各対策委員会にプログラム内容のフィードバックを行えるようになった。

29

## 課題と今後の方向性

市内外に分散している多くの医療機関から外傷データを収集するのが難しい

医療機関の負担になりにくい  
外傷データの収集方法を検討

30